

令和3年度 石川工業高等専門学校の課題 外部評価報告書



令和4年3月

はじめに

石川工業高等専門学校は、昭和40年4月に国立高等専門学校第4期校として設立されました。

創立以来、我が国産業界を支える8,783名(女子1,522名)の本科生、540名(女子102名)の専攻科生を輩出してまいりました。

この間、社会、特に産業技術の世界は、設立当時、想像もつかなかった大きな革新・変貌を遂げ、石川高専の置かれた環境も大きな影響を受けています。

本学は、このような時代の変化に適応し、時宜にかなったカリキュラム編成や授業内容（シラバス）の変更等を重ねてまいりました。

近年では、グローバル人材育成に向けた国際交流事業、情報セキュリティ人材育成事業、非情報系学科を含む全学科での情報教育強化・高度化推進プロジェクトや、地域の活性化を旨とした地元産業界との連携活動に取り組むなど、本学の教育システムは絶え間ない変革と進化を遂げて今日に至っております。

本学では、教育・研究の質の改善に資するため、平成7年度に自己点検評価部会を設置して自己点検評価を実施し、その結果を報告書『明日へ向けて』として3～5年ごとに発行しております。また、同時に「運営諮問会議」を設置し、毎年地域の教育研究機関、行政機関、企業等の学外有識者の皆様による外部評価を受け、ご指摘を受けた課題について本学の運営にフィードバックを図っているところです。

本学における外部評価として、「運営諮問会議」の他、以下のように政府及び専門分野における有識者による様々な外部評価（ピア・レビュー）等を定期的に受審し、教育の質保証に努めているところです。

- ◆ 独立行政法人法における中期目標・中期計画における実績報告書の提出
 - ・ 平成16年4月の独立行政法人国立高等専門学校機構設置後、機構全体で5年を1期とする中期目標・中期計画を策定して計画的に運営し、毎年度、政府に対し、実績報告書を提出。
- ◆ 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
 - ・ 「高等専門学校機関別認証評価」（直近：令和3年度受審）
 - ・ 「認定専攻科（電子機械工学専攻・環境建設工学専攻）」審査（直近：平成30年度に受審）
 - ・ 「学位授与に係る特例の適用認定」（平成26年5月認定）（毎年受審）
- ◆ 工業教育の質保証に係る国際認証（ワシントン協定に基づくもの）
 - ・ JABEE（日本技術者教育認定機構）対応教育プログラム
（直近：平成28年度）（本科4年生から専攻科生対象「創造工学プログラム」について）

「運営諮問会議」による外部評価は、地域の事情に精通されている有識者の皆様から評価をいただくものとして、毎年実施し、国立高専の重要な使命の一つである産学連携や地域への技術者人材輩出等について地域の皆様の様々なニーズを踏まえた、ご意見をお伺いできる貴重な場と認識しております。

令和3年度もコロナ過でも絶え間ない活動を続ける本学の活動状況について、教育・研究・社会貢献・管理運営等の諸活動に区分して地域の学外有識者の皆様にご説明させていただくとともに、忌憚のないご指摘とご意見をお願いするため、令和4年3月11日に開催した次第です。

本報告書は、各委員の皆様からの評価をそのままの形でまとめてあります。良い評価をいただいている項目がある一方で、厳しい評価をいただいた項目があることも認識しております。

厳しい評価内容項目については、今後、逐次分析し、それらに対応した改革を積極的に遂行することが、本学に課せられた重要な使命であり、それがまた評価していただいた委員の皆様の労に報いることでもあると承知しております。

最後になりましたが、運営諮問会議の皆様には、ご多用な中での多大な労に心から深く感謝申し上げますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4年3月22日

石川工業高等専門学校
校長 須田 義昭

目 次

はじめに

I	これまでの経過	1
II	外部評価（運営諮問会議）	2
	1 石川工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	2
	2 令和3年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要	3
	3 外部評価シート	8
III	運営諮問会議の意見の要約（講評）	
	運営諮問会議議長 飯田 弘之	13
	運営諮問会議開催の公表	14
	おわりに	15

I これまでの経過

第1回運営協議会（平成16年3月開催）

第2回運営協議会（平成17年3月開催）

第3回運営協議会（平成18年3月開催）

第4回運営協議会（平成20年3月開催）

平成20年度運営諮問会議（平成21年3月開催）

平成21年度第1回運営諮問会議（平成21年11月開催）

平成21年度第2回運営諮問会議（平成22年3月開催）

平成22年度運営諮問会議（平成23年3月開催）

平成23年度運営諮問会議（平成24年3月開催）

平成24年度運営諮問会議（平成25年2月開催）

平成25年度運営諮問会議（平成26年2月開催）

平成26年度運営諮問会議（平成27年2月開催）

平成27年度運営諮問会議（平成28年2月開催）

平成28年度運営諮問会議（平成29年3月開催）

平成29年度運営諮問会議（平成30年3月開催）

平成30年度運営諮問会議（平成31年2月開催）

令和元年度運営諮問会議（令和2年2月開催）

令和2年度運営諮問会議（令和3年2月開催）

令和3年度運営諮問会議（令和4年3月開催）

Ⅱ 外部評価（運営諮問会議）

1 石川工業高等専門学校運営諮問会議 委員名簿

石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長 (三谷産業株式会社 取締役副会長)	饗 庭 達 也
北陸先端科学技術大学院大学 理事（教育，学生担当）・副学長	飯 田 弘 之
石川県小中学校校長会 会長 (かほく市立宇ノ気中学校長)	井 上 勝 文
石川工業高等専門学校 同窓会会長 (酒井工業株式会社 代表取締役社長)	岡 田 康 晴
公益財団法人 石川県産業創出支援機構 副理事長	斉 藤 直
石川県商工労働部長	南 井 浩 昌
金沢大学 理工学域・研究域長	森 本 章 治
津幡町長	矢 田 富 郎

(五十音順)

2 令和3年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要

(1) 日 時 令和4年3月11日(金) 14:00～16:20

(2) 場 所 石川工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室

(3) 出席者

・運営諮問会議委員

饗 庭 達 也(石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長)

(三谷産業株式会社 取締役副会長)

飯 田 弘 之(北陸先端科学技術大学院大学 理事(教育, 学生担当)・副学長)

岡 田 康 晴(石川工業高等専門学校 同窓会会長)

(酒井工業株式会社 代表取締役社長)

斉 藤 直(公益財団法人 石川県産業創出支援機構 副理事長)

森 本 章 治(金沢大学 理工学域・研究域長)

・学校側出席者

校 長

須 田 義 昭

副校長(管理運営担当)

瀬 戸 悟

副校長(地域・国際連携担当)

道 地 慶 子

校長補佐(教務主事)

金 寺 登

校長補佐(学生主事)

畔 田 博 文

校長補佐(寮務主事)

岩 竹 淳

校長補佐(図書情報主事, 図書館長)

山 田 悟

専攻科長

義 岡 秀 晃

事務部長

本 芳 則

総務課長

西 田 準

学生課長

小 俣 明 美

・欠席者 井上委員, 南井委員, 矢田委員

・会議写真



飯田議長



須田校長



森本委員



斉藤委員



饗庭委員

岡田委員



（４）議事概要

【開 会】

総務課長から、令和３年度運営諮問会議の開会宣言があり、出席委員の紹介、本校出席者の紹介を行った。引き続き、配付資料の確認、日程の確認を行った。

【校長挨拶】

須田校長から、挨拶の後、当会議の議長を飯田委員（北陸先端科学技術大学院大学、理事（教育、学生担当）・副学長）に委嘱したい旨提案があり、了承された。また、運営諮問会議委員に対し、配付資料及び当会議の結果を踏まえた評価シートへの評価記載について、協力依頼があった。

【議 事】

1. 「石川工業高等専門学校の実況 外部評価のための資料」の概要

標記全体説明及び資料の各章の概要について、次のとおり説明があった。

全体説明（須田校長）

I 理念・目的

第１章 学校の目的（瀬戸副校長）

II 教育活動

第２章 教育組織（実施体制）（瀬戸副校長）

第３章 教員及び教育支援者等（瀬戸副校長）

第４章 学生の受け入れ（金寺教務主事）

第５章 教育の方法および内容（金寺教務主事）

第６章 教育の成果（金寺教務主事）

第７章 学生支援（金寺教務主事，畔田学生主事，岩竹寮務主事）

第８章 施設・設備（山田悟図書情報主事）

第９章 教育の質の向上及び改善のためのシステム（金寺教務主事）

III 研究活動

第１０章 研究体制と支援（道地副校長）

IV 社会活動

第１１章 地域社会との連携（道地副校長）

第１２章 国際社会との交流（道地副校長）

V 広報・評価・管理運営

第１３章 広報活動（山田悟図書情報主事）

第１４章 評価（瀬戸副校長）

本校からの説明後、質疑応答、意見交換が行われた。
主な質疑、意見は以下のとおり。

○（委員）

非常に多様な活動をやっておられて素晴らしいと思います。文部科学省が推進している情報教育の強化プロジェクトや情報セキュリティ事業などにおいて、積極的に全国の高専の取りまとめ校として多数採択を受けていますが、どのような種をまいて来られたのか。また、どの学年を対象に実施しているのか概要をお聞きしたい。

（本校）

本校は情報分野だけではなく、いろいろな取組を積極的に行っており、本編資料 53 ページ以降にこれまでの取組を記載してあります。このような教育活動を平成 20 年前後から継続的に努力してきたことが認められたものと思います。

目標としては国の AI 戦略 2019 ということで、全学科（1 年～5 年全体）のシラバスの内容を変更することでリテラシーレベルに対応することができた。本校としては、文部科学省からの目標に合わせた形で出来ているということで、全国の高専へノウハウをお伝えし、活動を継続している。情報系につきましては、次の応用レベルの申請に向け準備を進めている状況です。

○（委員）

「学びやすさ」については、様々な諸制度により整備されており、それを数値化し一定水準を満たすことで学びやすい環境だと判断できるのですが、一方で勉強していこうという「学び甲斐」というか、気持ちに訴えていく部分について、何か取組みをされているか。

（本校）

石川高専全体としては、高専の使命であるソーシャルドクターやソーシャルクリエイターを育成するというので一丸となり取組んでいます。

まず、技術で社会を幸せにするということを標榜として、入試説明会等で石川高専の取組や活動を紹介し、興味のある子は是非来てくださいという形でお誘いをしています。

そして実際に入学してくれたら 1 年生から勉強だけでなく実験や実習を行い、さらに全学科の方でいろいろな課題を用意し毎年 1，2 個の課題を積み上げていく形で、5 年間でかなりの数のプロジェクトをやっています。

このような形を通じて、学生達は将来これが出来るようになれば、実際にこういう技術で幸せに出来そうだなということが感じられて、やり甲斐というか、勉強し甲斐を持ってくれて、いろいろな賞を取ったり、頑張ってくれているのだと思います。

○（委員）

課外活動を非常に頑張っておられますが、コロナ禍で制限がある中でどのようにマネージして、このような素晴らしい成果を上げることができたかお聞きしたいのと、共同研究などの外部資金はどのくらいのランキングになっているのかお聞きしたい。

(本校)

コロナ禍での課外活動等についてですが、学生の健康観察を行い学校の方でコントロールしています。そのため学生には必ず検温報告をしてもらい、体調異常がある場合は出席停止の措置を取っています。その他社会情勢や県の教育委員会の指針を参考に周辺の高校の活動状況を見ながら、ブレーキを踏んだり、アクセルを踏んだり対応しました。本校では校長をトップとした危機管理室会議において協議し決定しています。

共同研究、委託研究については、機構本部の理事長ヒアリング時に、順位は分からないが全国レベルより低いと言われていました。機構本部からは外部資金を積極的に獲得するよう要望がありましたが、なかなか難しいと思っています。

【まとめ】

- ・ 全体的によくやっておられ、引き続き良いチームワークでやっていただきたい。
- ・ 成人年齢が 18 歳に法律が改正され、貴校の学生さんも対象年齢になります。18 歳になると社会的にどのような責任があるのかということを周知徹底お願いしたい。
- ・ これから高専生や卒業生で起業される方が出てくるかもしれませんので、起業支援に関する取組をしていただけると嬉しいと思います。
- ・ ご説明があまりにもご熱心なあまり、質疑応答の時間がほとんど取れていないので、時間配分やトータル時間等を工夫して議論の時間が取れるよう改善をお願いしたい。

【閉 会】

須田校長から、委員に対する謝辞に引き続き、総務課長から閉会宣言があった。

(以上)

(5) 資 料

1. 石川工業高等専門学校の実況-外部評価のための資料-
2. 石川工業高等専門学校の実況（資料編）
3. 石川工業高等専門学校の実況（令和3年度の概要）
4. 石川工業高等専門学校運営諮問会議規程
5. 石川工業高等専門学校「学校要覧」（2021年度版）
6. 石川工業高等専門学校 2022 学校案内リーフレット
7. 石川高専だより No.100, 101
8. 石川工業高等専門学校の課題 令和2年度 外部評価報告書
9. トライアル研究センター ニュースレター Vol.42, 43
10. 石川工業高等専門学校技術振興交流会 会員企業ガイドブック 2021
11. 「灯火」第129号
12. 石川工業高等専門学校評価シート（別途：5段階評価基準）（委員のみ）

3 外部評価シート

記入要領

評点欄には下の基準による5段階評価の評点をご記入ください。

5：優れている あるいは 適切である。

4：やや優れている あるいは ほぼ適切である。

3：普通 あるいは どちらとも言えない。

2：やや劣っている あるいは あまり適切とは言えない。

1：劣っている あるいは 適切とは言えない。

部	章番号	章タイトル	令和3年度		令和2年度
			自己評価 平均評定 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)
第Ⅰ部 理念・目的		本校の精神			
		沿革 概要及び卒業生			
	1	学校の目的	5.0	5.0	5.0
第Ⅱ部 教育活動	2	教育組織（実施体制）	5.0	5.0	5.0
	3	教員及び教育支援者等	4.0	4.6	5.0
	4	学生の受け入れ	5.0	4.6	4.6
	5	教育の方法および内容	4.0	4.5	5.0
	6	教育の成果	4.0	4.5	5.0
	7	学生支援 学習支援等（7.1～7.4） 進路指導（7.9～7.10）	5.0	5.0	5.0
		学生支援 課外活動・生活指導 ・学生相談等（7.5～7.7）	5.0	5.0	5.0
		学生支援 学生寮（7.8）	5.0	5.0	4.8
	8	施設・設備 共同利用施設	4.0	4.3	4.6
	9	教育の質の向上及び改善のための システム	4.0	4.4	5.0
第Ⅲ部 研究活動	10	研究体制と支援	4.0	4.7	5.0
第Ⅳ部 社会活動	11	地域社会との連携	5.0	4.6	4.5
	12	国際社会との交流	3.0	3.9	4.5
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	13	広報活動	4.0	4.3	4.6
	14	評価			
	15	管理運営			

委員のご意見

部	章	記入欄
第Ⅰ部 理念・目的	本校の精神 沿革 概要及び卒業生 第1章 学校の目的	・沿革以来の創設理念を大切にし、全体的にバランスよく取り組み、時代の流れに対応する柔軟な運営を進めている様子が窺えました。全般にわたって、校長先生のリーダーシップが発揮される体制となっていることは高く評価できると思います。 ・地元企業への就職率は高いが、全国の企業への就職とのバランスも留意が必要である。 ・高専生としての5年後の姿に視点を与えた取組みは、ややもすると短視眼的な意考になりがちな現代社会においては、とても大切な教育の目的と感ずる。 ・とても良いと思います。
第Ⅱ部 教育活動	第2章 教育組織（実施体制）	・コロナ禍にあつて、教育体制の維持・向上は大きな課題であるが、独自の工夫を含め、教職員一同が一丸となって取り組まれている様子がよくわかりました。特に、学生一人一人への対応に大変な労力を払われていることは高く評価できると思います。学生目線で一つ一つの教育プログラム・教育カリキュラムを見直し、学生さんをしっかり育てる上でさらなる取り組みが期待されるものと愚考致します。教育関連の成果を可視化することには常に困難が伴いますが、学生さん一人一人の動機を高めるような工夫が今後の求められると感じます。学生の支援についても、体育会系、文化系などいろいろな分野で活躍されておりますが、可能な限り、一人一人の個性や才能に注視するような方向性が期待されるものと愚考致します。 ・近年、入試倍率は低下傾向にあるもののやむ得ない面もあろう。
	第3章 教員及び教育支援者等	
	第4章 学生の受け入れ	

	第5章 教育の方法および内容	・講義と実験の融合を図るための in-situ 教育の取り組みは現実には難しい面もあるはずだが、その方向性は評価できる。 ・数理データサイエンスや情報セキュリティ分野教育での先進的な取り組みは高く評価される。 ・オーダーメイド数学活用大辞典の作成・運用の取り組みは重要である。
	第6章 教育の成果	・検温チェックなど寮での新型コロナ感染対策がしっかりしており、陽性者数も抑制されている。 ・学びやすい環境作りの必要性は認めるものの、自主性、自律性を欠く程まで整えすぎてはいけないのではないのでしょうか。石川高専らしいバランスの追求をお願いします。
	第7章 学生支援	・施設・設備の質的改善に向けた取組みに関して、更なるご努力をお願いします。特に学内にカフェ等のコモンズを検討ください。 ・コロナ禍で何もできなかった、昨年度より今年度はコロナと付き合っていたと思います。来年度以降もいろいろ工夫をしていってください。
	第8章 施設・設備	
	第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム	
第Ⅲ部 研究活動	第10章 研究体制と支援	・研究を進める上で具体的にどのような仕組みを取り入れているか不明な点もありますが、科研費や産学連携などの取り組み状況を聞く限り、よい成果を得ていると判断できます。限られた時間とリソースの範囲内での研究活動にならざるを得ないと想像しますが、近隣の研究機関（JAIST や金沢大学など）を有効利用されてはいかがでしょうか。学生さんを積極的に研究インターンシップへ

		参加させ、派遣先研究機関の研究室との連携を深めるのはよくあるパターンですが、これ以外にも、国際会議で研究成果をオンライン発表するなど、新たな展開も期待できるように感じます。 ・新規・継続合わせての科研費採択件数は過去最高を記録するなど、全国的にもトップクラスの採択実績を有している。 ・北陸地方という立地のハンディキャップはあるが、共同研究等の外部資金の獲得には努力が必要である。 ・特定の教員に業務負担が集中していないか、今一度、点検をお願いします。 ・とてもいい活動をしていると思います。
第Ⅳ部 社会活動	第 11 章 地域社会との連携 第 12 章 国際社会との交流	・地域との連携という観点では、実績が豊富にあり、模範的な取り組みであると感じました。産学連携をはじめ、いろいろな形での連携があり得るので、学生さんが地域社会との接点をより広げる機会を持てる工夫が期待されるものと思考致します。国際面では、世界の動向を常に意識しながら、教育・研究を進める習慣を学生さんが身に着けるように期待されていると思います。国際的な場で活躍するために、どのように準備できるかについて考えることも重要であろうと思います。この方面でも、金沢大学やJAISTを大いに利用されてはいかがでしょうか。 ・地域やOB・OGとのコモンズをICTを活用し活性化していただきたいと思います。 ・海外との交流は今は難しいと思いますが、少しずつ活動していきましょう。
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	第 13 章 広報活動 第 14 章 評価 第 15 章 管理運営	・広報については、学生募集や同窓生などを視野に入れつつ充実した展開になっているように感じました。自己点検評価制度で常に改善点を見出す方針は高く評価できると思います。財務面でも計画的かつ戦略的に、目指すべき方向へ投資することが期待されていると思考致します。 ・YouTube等の電子メディアを活用し、様々なコミュニティに発信下さい。 ・改善するところは改善していきましょう。

〔全体についてのご意見〕

・コロナ禍の２年目ということで、ポストコロナ禍を見据えて、軌道に乗った展開がなされている印象を受けました。全般にわたる校長先生のリーダーシップがベースにあり、各担当部署がしっかり持ち場での責任を果たすという当たり前のことが充実され実行できていることは高く評価できると思います。定期試験で失態があったことが紹介されておりましたが、そのことよりも、その後の修正する体制が重要で、その点で問題ないと考え評価する次第です。

・本運営諮問会議での評価する実績のボリュームに比べて、会議設定時間２時間は短すぎると思います。説明に力が入るのはよく理解できますので、会議をコロナ以前の計３時間で設定するなどして、質疑応答の時間を確保していただくことが重要と考えます。

・質疑応答の時間の確保について、今後、少し配慮願います。大変すばらしい、ご報告であったと存じます。

・卒業生の進路の実情からみて、本科生へのインターンシップ導入もあるのではと思います。

・会議の時間配分をもっと余裕を持ってほしいと思います。

Ⅲ 運営諮問会議の意見の要約（講評）

運営諮問会議議長 飯田弘之

石川工業高等専門学校（以下、石川高専）から、全体の概要説明に続いて、「理念・目的」、「教育活動」等に区分した事項について説明があり、その後、質疑応答・意見交換が行われた。なお、委員からの意見は概ね以下のとおりであった。

1 学校の理念・目的について

沿革以来の創設理念を大切にし、全体的にバランスよく取り組み、時代の流れに対応する柔軟な運営を進めている様子が窺えた。全般にわたって、校長先生のリーダーシップが発揮される体制となっていることは高く評価できる。

2 教育活動（学生支援等含む）について

コロナ禍にあり、教育体制の維持・向上は大きな課題であるが、独自の工夫を含め、教職員一同が一丸となって取り組まれている。

3 研究活動について

科研費や産学連携などの取組み状況を聞く限り、よい成果を得ていると判断できる。

近隣の研究機関（JAIST や金沢大学など）を有効利用されては如何か。学生を積極的に研究インターンシップへ参加させ、派遣先研究機関の研究室との連携を深めるのはよくあるパターンであるが、これ以外にも、国際会議で研究成果をオンライン発表するなど、新たな展開も期待できるように感じる。

北陸地方という立地のハンディキャップはあるが、共同研究等の外部資金の獲得には努力が必要である。

4 社会活動（地域社会との連携、国際社会との交流）について

地域との連携という観点では、実績が豊富にあり、模範的な取組みであると感じた。

国際的な場で活躍するために、どのように準備できるかについて考えることも重要である。

5 広報・評価・管理運営

学生募集や同窓生などを視野に入れつつ充実した展開になっているように感じた。

以上、石川高専の教育、研究、社会活動等については、各委員から積極的に評価する意見が多く出された。また、開催時間については、コロナ以前の計 3 時間で設定するなどし、質疑応答の時間を確保していただくことが重要と考える。

運営諮問会議開催の公表

・石川工業高等専門学校ホームページ

令和3年度運営諮問会議を開催

3月11日（金）本校において、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を開催しました。この会議は、地域の学外有識者の方々に本校の教育活動、研究活動、社会活動および管理運営等について、自己点検評価に基づき評価をいただくもので、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としています。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者5名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席しました。

はじめに須田校長が挨拶を行い、その後、議長に北陸先端科学技術大学院大学理事（教育、学生担当）・副学長の飯田氏が選出されました。

議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献および国際交流等について各担当者から説明がありました。その後、質疑・意見交換が活発に行われ、多くの有意義なご意見をいただき、最後に飯田議長から全体の講評がありました。

本校では、今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげていきます。



会議風景



議長の飯田 北陸先端科学技術大学院大学
理事（教育、学生担当）・副学長

・刊行物

文教ニュース 2022年5月9・16日

文教速報 2022年5月13日

Ⅱ石川高専Ⅱ

令和3年度運営諮問会議開催

石川高専は3月11日、運営諮問会議を開催し、学外有識者による外部評価が行われた。同会議には、大学や地域企業等の学外有識者5名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席。須田校長（当時）による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献および国際交流などについて各担当者から説明があり、その後、質疑・意見交換が行われた。



議長の飯田北陸先端大理事・副学長

石川高専、運営諮問会議を開催

石川高専では、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議をこのほど開催した。石川高専の教育、研究、社会活動などについて自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言を行い、今後の教育の改善や、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としている。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者5名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席。はじめに須田校長の挨拶後、議長に北陸先端科学技術大学院大学の飯田理事（教育、学生担当）・副学長が選出された。

議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献や国際交流などに関する各担当者から説明があった。委員からは多くの有意義な意見や提言が寄せられ、最後に飯田議長から全体の講評が述べられた。

同校では今回の貴重な提言を活かして、一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげていくとしている。




おわりに

依然として新型コロナウイルス感染症の勢いが一向に収まらない中、今年度も本校側の出席者を絞った形ではありましたが、運営諮問会議を無事に開催できたことに対し、出席された委員の皆様をはじめとする関係者各位に感謝を申し上げます。

まず教育活動全般については、委員の皆様からは高い評価をいただきました。特に in-situ 教育、数理データサイエンス、情報セキュリティ分野教育での先進的な取り組みに関しては高い評価をいただきました。また、検温チェックなど寮を含めた学内の新型コロナウイルス感染対策がしっかりとされており、陽性者数も抑制されているとの評価をいただきました。一方で、学びやすい環境作りの必要性は認めるが、あまりに整った環境が学生の自主性、創造性の伸長を阻む結果になっていないか？と懸念される意見もありました。ご指摘の懸念は、我々もアクティブラーニングの観点から重要な観点と考えます。如何に学生の“学び”に対する積極性を引き出すかは教育の根源的な部分でもあり、そのためには学校全体の“学び”の雰囲気大切にしたいと考えています。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により「体験入学」、「夏休みこども石川高専」を中止せざるを得ない状況でしたが、令和3年度は参加人数を制限する形ではありましたが開催することができました。いずれの催しに対しても多くの申込があり、参加した生徒および保護者からのアンケート結果の好意的な評価からも、本校の素晴らしい施設および各学科の魅力を伝えることができたものと思います。今後のコロナ禍の状況は見通せませんが、次年度も積極的に学校広報に注力していきたいと考えています。

研究体制については、昨年度に引き続き科研費の採択件数が高専の中でトップクラスを維持していることに高い評価をいただきました。教育と研究は車の両輪と考えます。どちらかが欠けても学生に質の高い教育を提供することができません。この二つのバランスを取りながら今後も研究活動を進めて、最新の科学技術の情報を学生に提供していくつもりです。また、共同研究等の外部資金獲得に努力が必要とご指摘がありました。地域企業が抱える問題に関しては、共同研究等をとおしてさらに積極的に貢献していく必要も感じております。

国際交流については、今年度も残念ながら4年生の海外研修旅行は中止となりましたが、新たな国際性涵養教育として「海外で活躍するOB/OG講演会」をオンラインで開催しました。

全体としては、委員の皆様から校長のリーダーシップの下、石川高専の活動全般に高い評価をいただきましたが、改善を要する課題のご指摘も受けました。本校教職員はご指摘された課題を改善しつつ、コロナの感染状況に関わらず質の高い教育を継続して、社会の変化に即応できる高度な専門性を有する人材を育成していく所存です。

最後に、年度末のご多忙かつ大変な状況の下で、本校教育運営の改善にご尽力をいただきました運営諮問会議委員各位に対し、深甚の謝意を表します。また、自己点検評価報告をまとめた本校の総合企画会議及び点検評価委員会の委員各位、報告書・資料集の取りまとめおよび作成にあたった総務課の皆さんにお礼を申し上げます。

令和4年3月30日

石川工業高等専門学校
副校長 瀬戸 悟



石川工業高等専門学校の課題 令和3年度 外部評価報告書

発行 令和4年6月
編集 総合企画会議
発行者 石川工業高等専門学校
〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条タ1
TEL 076-288-8000
FAX 076-288-8014
URL <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/>



独立行政法人国立高等専門学校機構

石川工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College